

電子町内会便り

水利委員に感謝！！

大型の台風18号が日本列島を縦断し、岡山市北区においても避難勧告が早目から出された。

17日夕方、家の前の用水が溢れんばかりの状況になり、会長と町内を巡回した。6組と9組以外の大通りを入った脇道は、ところどころで10～20センチ位浸水していた箇所があった。

一方、午後6時頃から、わが町内の水利委員が、用水路の水を排水するため、田中水門の大型ポンプ3基（1基 直径90センチ）をフル稼働させて笹ヶ瀬川へ排水をしていた。

「庭先まで水が来ているがどうなるのか」「車を移動させた方がいいだろうか？」等の問合せもあり、一時はどうなるのか不安だった人も多かったのではないのでしょうか。

午後9時頃から雨も小康状態になり水位が下がって来たのが確認できた。少しやれやれである。幸いに最終的に被害に遭った情報は入っていない。

水利委員の方々は水位の安定確認と、翌朝大雨となる予報が出ていたこともあり、朝方の7時頃まで任務にあたって下さいました。大変お疲れ様でした。

有難うございました。

町内会副会長 原 安正

雑記帳

菅井竜也七段王位獲得の快挙



最年少プロ棋士の藤井聡太四段がすい星のごとく現れ、並み居るベテラン棋士を次々と撃破し、ついには最多連勝記録「29」に並び、空前の将棋ブームを作っている。

あとけなさが残る中学生がはにかみながら、礼儀正しく、そして難しい言葉を用いインタビューに答える様子は日本人好みのタイプだろう。

お陰で、専門雑誌などの売れ行きも好調という。また、自ら揮毫した扇子やファイルの公式グッズは飛ぶように売れ、幼少期に愛用した知育玩具は品薄状態が続くなど波及効果が拡大しているという。

少し遡るがコンピュータと人間が対局する電王戦が大いに盛り上がった。人間に勝ってほしいという期待は大きかったがコンピュータの進歩は凄まじく、残念ながら、コンピュータに勝てなくなった。

だからと言って将棋の魅力が失われるものではない。例えば人と車が100メートル走の勝負で、勝つとか負けるとかの興味があったのは車の初期の話だ。人間同士の戦いの魅力は、駆け引き・心理戦を含めたところにある。

8月30日、将棋の八大タイトルの一つ「第58期王位戦」で挑戦者の菅井竜也七段が羽生善治王位・王座・棋聖を破り、対戦成績4勝1敗で初のタイトルに勝利した。

将棋界で、トップに君臨するのは間違いなく羽生3冠だ、この絶対王者に堂々と挑み勝利したのだ。即ち、この快挙は菅井時代の到来を予感させる。自分自身の日々の努力の成果そのもので自分自身が頑張ったことを自慢すればいいことだが、メダリストたちがこぞって口にするのは、周りへの感謝の言葉であった。このことが嬉しさをより拡大させる。

彼は、岡山生まれの岡山育ちの若干25歳の棋士だ。このことで、岡山の将棋人気が高まることは間違いあるまい。

彼の地元の御津町ではこの朗報に町中が沸いているというが、才能あふれる菅井棋士を岡山市民全体で応援しようではないか。（独り言）